

カリキュラム区分		4カリ		シラバス区分		学部生		
科目区分	科目コード	履修時期		開講学科	選択区分	科目名（上段：和名、下段：英名）	時間	単位
		学年	学期					
専門科目	203	1年	前期	看護学科	必修	基本援助技術論 Fundamental Nursing Methods	30	1
担当教員								
北川 恵	徳永 なみじ	香川 里美	谷本 淳子	森 敬子	野本 百合子			
関連するDPキーワード（看護学科）								
<input type="radio"/>	① 幅広い視野と豊かな感性を身につけ、人々の権利や意思を尊重した倫理的な看護が実践できる。							
	② 他者との関係性を成立・発展させるためのコミュニケーション能力を身につけている。							
<input type="radio"/>	③ 地域で生活する複雑・多様な対象を、専門的知識に基づき総合的に理解するための基礎的能力を身につけている。							
<input type="radio"/>	④ 看護の対象が、その人らしく生きられるように、科学的根拠に基づいた看護が実践できる能力を身につけている。							
	⑤ 地域社会及び保健・医療・福祉分野における多職種と連携・協働し、看護職の役割を拡大できる基礎的能力を身につける。							
	⑥ 看護専門職として、主体的・創造的に継続学習に取り組む能力を身につけている。							
	⑦ グローバルな視点で看護実践を科学的に探究し、看護を発展させる基礎的能力を身につけている。							
関連するDPキーワード（臨床検査学科）								
	① 幅広い知識・教養をもとに、医学検査の対象となる人を総合的に理解し、その人の権利や意思を尊重することができる。							
	② 医学的に必要な専門知識・技術を備え、検査データを総合的に解析する力を身につけている。							
	③ 多職種間で連携・協働しながら医学検査の専門家として貢献できる力を身につけている。							
	④ 医学検査とそれに関連した幅広い分野の発展・向上のために、自らの能力を高める自己教育力を身につけている。							
	⑤ 科学的思考力に基づき、医学検査の進歩・発展に対応できる学究的態度を身につけている。							
	⑥ 医学検査を通して、社会の多様性に合わせた貢献ができる基礎的能力を身につけている。							
授業目的								
看護を提供する際に共通する、基本的な援助技術とフィジカルアセスメント技術が理解できるとともに、主体的に学習課題に取り組み、援助技術及びフィジカルアセスメント技術を身につけることができる。								
到達目標（授業目標）								
1 基本援助技術を実施するための根拠となる知識が記述できる。								
2 基本援助技術の実施方法を安全・安楽・自立の観点から説明できる。								
3 メンバーと協力しながら、主体的に学習課題および演習に取り組むことができる。								
4 基本援助技術を安全・安楽・自立に配慮した方法で実施できる。								
5 技術演習を振り返り、自己課題と改善策を演習後レポート内に記述できる。								
6 看護を提供するための基礎的なフィジカルアセスメント技術が実施できる。								
授業計画（項目・内容与方法・担当者）								
回								
1回	オリエンテーション：基本援助技術論の学習目標・展開方法、演習室の使い方（北川 恵、谷本淳子、森敬子）							
2回	人間尊重・擁護の方法：インフォームドコンセント、プライバシー保護（野本百合子）							
3回	コミュニケーション技術：看護におけるコミュニケーションの意義と基本的知識（香川里美）							
4回	コミュニケーション技術：看護におけるコミュニケーションの意義と基本的知識＜演習＞コミュニケーション能力のアセスメント、基本的なコミュニケーション方法（香川里美）							
5回	感染予防の基礎的知識と方法（徳永なみじ）							
6回	感染予防の技術：感染予防の意義と方法、標準予防策、消毒法、隔離、医療廃棄物の取り扱い＜演習＞手洗い、個人防護具の使用、							
7回	感染予防の技術：感染予防の意義と方法、標準予防策、消毒法、隔離、医療廃棄物の取り扱い＜演習＞薬液消毒（徳永なみじ、担当者全員）							
8回	フィジカルアセスメントの共通技術：視診、触診、打診、聴診の技術（徳永なみじ）							
9回	フィジカルアセスメントの共通技術：＜演習＞視診、触診、打診、聴診（徳永なみじ、担当者全員）							
10回	安全管理技術：安全を守る意義、安全確保・転倒転落予防（香川里美）							
11回	療養環境調整技術：環境と健康、生活環境を整えるための視点、＜演習＞ボディメカニクス、ベッドメイキング（北川恵、担当者全員）							
12回	療養環境調整技術：環境と健康、生活環境を整えるための視点、＜演習＞ボディメカニクス、ベッドメイキング（北川恵、担当者全員）							
13回	療養環境調整技術：病床の作成と環境整備、＜演習＞シーツ交換（北川恵、担当者全員）							

14回	療養環境調整技術：病床の作成と環境整備、＜演習＞シーツ交換（北川恵、担当者全員）									
15回	まとめ＜筆記試験＞（担当者）									
16回										
17回										
18回										
19回										
20回										
21回										
22回										
23回										
24回										
25回										
26回										
27回										
28回										
29回										
30回										
成績評価方法及び基準										
筆記試験90%、事前学習・演習後レポート10%で評価する。トータル60点以上を合格とする。										
教科書	茂野香おる他「系統看護学講座-基礎看護学[2]基礎看護技術Ⅰ」医学書院、任和子他「系統看護学講座-基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅱ」医学書院、大久保暢子「日常生活行動からみるヘルスアセスメント」日本看護協会出版会									
参考図書等	適宜紹介する。									
授業時間外の学習について（授業準備のための指示）										
根拠に基づく確実な技術の修得に向けて、基本的な知識や技術の事前学習、視聴覚教材の視聴、演習後レポート、技術練習、等の課題を毎回提示する。										
関連科目										
前科	201	看護学概論	204	生活援助技術論Ⅰ	208	基礎看護学実習Ⅰ	205	生活援助技術論Ⅱ	206	診療援助技術論
後科										
実務家教員										
看護師（医療機関）	北川 恵	徳永 なみじ	香川 里美	谷本 淳子	森 敬子	野本 百合子				
備考	根拠に即した知識と確実な技術習得のため、文献・視聴覚教材を活用し、担当教員と連携を取りながら、各単元で設定した学習課題に主体的に取り組むことを期待する。									